

令和4年7月1日

令和4年度第1回学校評議員会（会議録）

1 日 時 令和4年6月28日（火）
18:00～19:25

2 場 所 本校校長室

3 出席者
〈学校評議員〉※五十音順 敬称略
猪ノ口 由美子 本校元PTA会長
東海林 晃 前札幌養護学校PTA会長
吉 本 勝 東米里町内会長
〈学校職員〉
遠 藤 孝 一 校 長
萩 田 英 樹 教 頭
阿 部 真 基 事務長

4 欠席者
阿 部 陽 介 本校卒業生
平 岡 祥 孝 稚内大谷高等学校長

5 議 事

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 学校概況等について
- (3) 意見交換 ～次のような意見が出されました。

①地域活動との連携について

・東米里環境整備事業について、町内会の方々が高齢となっている現況において、従来のような連携事業は難しいとの町内会からの打診を受け、その代替案が提示された。具体は次のとおり。

ア 東米里の町内会に留まるのではなく、白石区連合町内会の方に打診をして、様々な地域行事等で連携する余地があるのではないかと。地域に住む者として高校にそういう思いがあることは伝えられる。

イ 従来のような環境整備事業が難しければ、新たな方法を模索する手立てもあるのではないかと。例えば独居高齢者の住宅の雪はね等には需要がありそうだし、地域の幼稚園等での預かりボランティアに取り組む等も考えられる。

ウ 地域の学校におけるプール開放の保護者当番のサイクルに高校生が加わるということも考えても良いかもしれない。そういったことで地域にささりこんでいくことで、今後一層の連携に繋がっていくと考える。

②札幌白陵高校の評判について

・令和4年度入学生において、残念ながら定員を大幅に下回り、1間口減となった。次年度の生徒募集については挽回を図りたいが、依然として「生徒指導困難校」としてのイメージが払拭し切れてないことがあるのではないかと考え、地域等へのイメージアップ戦略の具体案について意見が提示された。具体は次のとおり。

ア ここ近年、かつてのような指導困難校の様相はほとんど見られない。バスのマナー等についても向上したと聞いている。にも関わらず、あまりイメージが良くないのは学校や生徒の実態が認知されていないこともあるのではないかと。

イ （アに関連して）もし認知不足によるイメージであれば、実際の学校や生徒の様子を地域や社会に見てもらうことが必要だ。ならば、地域や社会に白陵高校生が出る機会をどんどん増やしていくことが効果的だと考える。具体としては先程挙がった地域との連携も有効であろうし、スポーツや吹奏楽等の部活動における対外交流も必要ではないかと。

ウ ことに受検者の増加に繋がるのは、保護者同士のネットワーク（実際白陵高校に通ってとても良かったと考えていること等）も一役買う面が大きいのではないかと。知り合い同士からの情報は信頼度が高く、それが受検者の増加に繋がる面もある。

エ 新聞やテレビ等、メディア戦略を展開することも必要と考える。実際他校の例でもうまくメディアを用いることで生徒募集に繋がっているものもある。

※以上の委員の意見を踏まえながら、学校として善処していくことを確認。

(4) その他
第2回開催日については、10月下旬頃とし、学校の様子（授業風景等）を見学することも予定していきたい。